



魔法のキャンバス

作成: 芝智之



豪華な西洋風の屋敷に、画家の家族が住んでいました。お父さんのルノワール、お母さんのアリーン、長女のクレア、長男のヴェルソ、そして次女アリシア。彼らは皆、魔法の力を持つ画家でした。今、家族全員がイーゼルにかけられたキャンバスの前に集まり、筆を交わそうとしています。



彼らの魔法の力とは、描いたキャンバスに意識を移すことで、絵の中の世界を五感で体験すること。絵の中の世界は、現実のように動き、本物のように息づく、もう一つの世界となるのです。ただし、絵の中に意識がある間、現実の体は動けなくなってしまう。今、アリーンが美しい風景を描き終え、意識を移した瞬間でした。



家族の幸せな日々は、対立する作家たちの陰謀によって、突然、終わりを告げました。屋敷は激しい火事に遭い、長男のヴェルソは次女のアリシアを庇って命を落とします。命を取り留めたアリシアも、顔に火傷を負い、声を失ってしまいました。



最愛の息子を失い、娘は傷つき、お母さんのアリーンは深い傷心から立ち直れませんでした。彼女は、かつて自分が描いた美しい風景画の中に閉じこもってしまいます。その絵の中には、亡きヴェルソの魂の一部が残っていることを、アリーンは知っていたからです。



長く絵の中にいると、現実のアリーンの体は急速に衰弱し、命が危険になります。父のルノワールと長女のクレアは、愛する妻と母を連れ戻すために、筆を手に取りました。二人は、硬直したアリーンを残し、絵の中の世界へと飛び込みます。



絵の世界に飛び込んだルノワールとクレアは、容赦なく「破壊」を始めました。この世界を消し去れば、アリーンは現実世界に戻らざるを得ないと考えたからです。ルノワールの大きな筆が触れるたび、アリーンの描いた美しい森や空が、黒いインクのように塗りつぶされ、消えていきました。クレアもまた、父と同じく、巨大な筆を振るい、空を黒く塗りつぶしました。



アリーンの力は弱まり、絵の世界は徐々に崩壊し始めました。彼女はこの世界に生きる人々を愛おしく思っていたため、彼らの創造主であることを隠したまま、別れを告げました。「この世界はもうすぐ消えてしまうわ。」しかし、住民たちは、アリーンが世界を消そうとしている張本人だと誤解し、彼女を激しく責め立てます。



その頃、絵の中の港で海を眺めていたヴェルソは、この世界が所詮「絵」に過ぎないと理解していました。彼は、悲しみに縛られる母を解放し、自分自身も「絵」という不完全な檻から解放され、正しく安らかに召されることを望んでいたのです。



ヴェルソは、父たちのような強引な破壊では、母はまた絵を描いて逃げ込むだけだと知っていました。彼は母が自ら死を受け入れ、現実へ戻ることを望んでいました。海岸でひとり佇むアリーンの元へ、ヴェルソは歩み寄り、優しく説得を始めます。

「お母様、私を愛しているなら、私を正しく送ってください。そして現実へ帰ってください。」



ヴェルソの切ない説得に、アリーンは抵抗する気力を失い、深く意気消沈しました。その時、黒いインクで空を塗りつぶしながら、ルノワールが現れます。彼はアリーンの憔悴した姿を見て、これが世界を消す最後の機会だと悟り、大きな筆を力強く振り上げました。



ルノワールが世界を消し去ろうとしたその瞬間、突然、一人の少女が彼とヴェルソの間に割って入りました。それは、現実では声を失い、顔に火傷を負ったはずのアリシアでした。絵の中では、彼女は健康な体で、自由に喋ることができたのです。アリシアは叫びます。「この世界を消さないで！私はここが好きよ！」



ヴェルソの死を受け入れ、現実に戻るのか？ それとも、声を取り戻し、愛する兄の魂が残るこの完璧な絵の世界に、家族全員で住み続けるのか？ その筆を振るうかどうかは、残された家族と、そしてあなた自身の選択に委ねられました。